

総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 日時 令和7年12月○日(○) 第○校時

2 学年 第4学年○組

3 単元名 「未来につなげる○○」【環境】

4 単元について

目標

○○のごみを減らすための活動に協働で取り組んだり、よりきれいで住みやすい町にするために提案したりする活動を通して、環境とは人々の暮らしと密接に関わり、それを壊すのも守るのも人間の活動であるということを理解し、持続可能な視点から地域や自分たちができることについて考えるとともに、地域の一員として環境を守るため、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

目指す子供の姿

- 環境とは、人々の暮らしと関わりながら成り立っており、それを壊すのも守るのも人間の活動であるということを理解し、環境の調査や地域のイベントの開催を通して、自らの学びや発信が地域の環境保全やよりよい未来につながることに気付いている。
- 地域で協力して環境を守っていくために、必要な情報を集め、根拠に基づいて整理・分析しながら持続可能な地域・社会の未来を予測し、自分たちで考えたことを他者によりよく伝わるように目的や相手に応じた方法で効果的に発信している。
- 自分が地域の一員であるという意識をもち、地域の人々の取組や環境保全に向けて、自分にできることを考え、積極的に関わろうとしている。

現在の子供の姿

本学級の児童は、学習や生活のさまざまな場面で「○○の地域のよさ」や「地域の課題」に目を向け始めている。3年生では地域の安心・安全に関わる探究活動を進めてきており、地域への関心や課題意識が高まってきている。

「○○ってどんな町？」と尋ねたところ、「人が優しい」「みんな仲良し」「公園がたくさんあって楽しい」といった地域の魅力を実感している児童が多かった。一方で、「ごみが増えている」「川が汚い」などの課題を挙げた児童もいた。

「○○の地域の課題を解決したいと思いますか？」という問いには93%が肯定的に回答している。3年生までの学習を通して、地域に働きかけることで自分たちの思いや考えが伝わり、さらに、地域を変えていくことにもつながるということを体験しており、自分たちが地域の一員としてこれからも役割を果たしていきたいという意欲が着実に育っている。さらに、「地域の行事に参加していますか？」との問いでは80%が肯定的な回答を示しており、地域行事への関心や参加意欲が高い児童が多いことがうかがえる。

また、学習面では「総合的な学習の時間で、学習の目標や進め方を自分で決めて取り組んでいる」と回答した児童は93%にのぼり、自分たちで見つけた課題に対して、友達といろいろなアイデアを出し合い、協力して解決していこうとする姿が見られる。しかし、個別に見てみると、自分ではどうしてよいか分からず困っている児童や、声かけや助言が必要な児童も多にいる。

タブレットを道具として学習に活用することができるようになり、学習を振り返ったり、自分の考えを表現したりする力も育ってきている。各教科の学習を通して、自分の考えや調べたことを文章や図、プレゼンテーションなどで発信する力もついてきた。一方で、コミュニケーションのとり方がまだ十分でない

児童が多く、話し合う活動やインタビューの仕方、地域の人との関わり方に関しては個人差がある。特に話し合いでの意見の共有や理由付けをとまなう発言の場面では、会話が一方通行になる様子も見られ、対話的な学びをどのようにしていくのかが今後の課題である。

単元の価値

〇〇学区には、多くの公園や商店があり、子どもたちからお年寄りまで、遊んだり集まってスポーツを楽しんだりするなどの環境が整っている。一方で、ごみのポイ捨ても多く、道端や公園には、たばこの吸い殻や飲食した後の空き缶やトレーなどが見られる。

本単元の価値は、子どもたちが身近な環境問題であるごみに目を向け、科学的な理解と社会的な関心の両面から持続可能な地域社会の実現に向けて、地域の人とともに、地域の価値や可能性を発見していくことにある。学習の出発点として地域を歩き、自分たちが感じた課題を意識化することで、地域の未来を考えることに目を向けさせ、「これからも〇〇が住みよい町であるためにはどうすればよいのか」という問いをもち、単元をスタートする。

その後、ごみ収集や、海岸でのごみ拾い、マイクロプラスチック採取などを通じて、理科学的な視点から現在の環境の状態を理解し、科学的根拠に基づいて、未来に向けた持続可能な町づくりについてアイデアを出し、考察・発信していく。また、ごみ拾いをイベントとして、地域の人と一緒に活動することを通して、自分たちの活動が、未来を変える一歩になるということにも目を向け、多面的な理解を広げられるようにする。

これらの活動を積み重ねることで、子どもたちは「地域のごみを減らし、もっと住みよい町にすることができる」「町につながりが生まれ、みんなで〇〇の未来を考えることができる」という意識をもち、科学的根拠と地域の声をふまえた提案や行動を自ら起こそうとする態度や資質を身に付けていくことが期待できる。

働きかけ・環境設定

本単元の導入では、まず子どもたちが町を歩き、自分たちの町が住みよい町になっているかという点に目を向ける活動から始めた。写真撮影などを取り入れて、気付きを可視化できる環境を整え、子どもたちが「町を住みよいものにしたい」や「未来につなげたい」といったテーマに自然に関心をもつことができるようにした。

町歩きの後は、いつもは目に入らなかった町のポイ捨てや、川沿いの大きなごみなどに目を向けさせ、そこから問いを立てていった。教師は情報の整理スキルなどの技能面での支援を行った。

その後、自分たちだけではなく地域の人にもごみ拾いに興味をもってもらいたいという子どもたちの思いを実現させるべく、子どもたち主催のごみ拾いイベントを開いた。具体的には、イベントの内容や流れ、必要な物品、広報活動の方法などを自分たちで考え、実行した。その際、自分たちの思いを伝えたり、よりよい選択ができるような話し合いをしたりするなどのスキルが高まるように思考ツールを活用した。イベントでは地域の人に積極的に関わり、対話が行えるようにサポートした。

第1回目のごみ拾いイベントを終え、子どもたちは、イベントについての課題や、イベントを開いただけではごみのポイ捨てが減らないということ、町がきれいになるためには、一人ひとりの意識を変えることが必要だということに気付いた。そこで、意識を変えるためにはどうすればよいのだろうかという問いから次の課題を設定した。ポイ捨てをそのままにしておいたらどうなるのだろうか、未来に向けた環境保全に関心や問いが広がってきた段階で、海洋ごみを自分たちに関係あることとして捉えることができるように、海洋ごみに触れたり、マイクロプラスチックを採取したりする体験学習を計画した。その学習には、食物連鎖や生態系への影響など、理科学的な視点からも問いを意識させた上で臨ませるようにした。また、ごみを減らして環境を守る活動をしている人に話を聞く機会を設け、人々に関心をもってもらうためには様々な方法があることに気付けるようにした。そうした活動を行うことで、子どもたちから第2回目のごみ拾いイベントを行いたいという声が上がった。ただごみ拾いをするだけではなく、「ポイ捨てをする人の意識を変えたい」というねらいをもって、イベントの開催の仕方を再考し、第2回目のごみ拾いイベントを開催した。

次に、子どもたちの「もっとたくさんの人に広めたい」という思いに応える形で、地域の人や他の小学校との交流を計画する。教師はこれらの活動を、「理科的な視点（科学的な理解）」と「地域資源としての社会的な視点（活用の可能性や文化的価値）」の両面から学べるよう意図的に設計し、活動前後には「環境をどう守っていく？」「未来につなげるにはどうする？」といった問いを整理・振り返る場面を設定する。

また、活動を進める中で地域の歴史や文化にも触れさせ、人と自然との関わりの変遷にも目を向けさせる。教師は地域の方から直接話を聞く場面や資料の提供なども意図的に組み込み、学びの広がりを図る。

発信活動に向けては、ポスターや動画、デジタルマップ、プレゼンテーションなど、STEAM 教育の視点を意識した多様な表現方法を教室内に提示し、子どもたちが自ら選び取り、創造的な発信につなげられるよう環境を整える。さらに、子どもたちの提案が地域に届き、実際の環境を守る活動につながることを目指す。地域の方々との関わりの方や発表の機会を意図的に設け、学びが実社会とつながるよう支援する。

つながる学び

校内研究「STEAM 教育（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）」との関連

○ Science（科学）

海洋ごみをそのままにしておくとうどうなるかを確認するため、海洋ごみの観察や収集、マイクロプラスチック採取などを行い、科学的なデータをもとに環境保全の意義や課題を考察する。

○ Technology（技術）

地域の方や園児を招いての交流会で、町のポイ捨てや海洋ごみを放っておくとうどうなるのかを視覚的に感じてもらうための演出として、プログラミングの技術を活用する。例えば、プログラミングを使った体験コーナーなどを設け、幼い園児でも海洋ごみが海の生き物に影響を与えていることが理解できるようにする。また、発信活動全体の準備においてポスター・動画・ウェブサイトなども活用する。

○ Engineering（工学的思考）

ごみ拾いイベントや交流会に向けて、コーナーの演出や、どのようなメッセージと組み合わせるかなどを考え、試行錯誤しながらプログラムや構成を工夫する。また、イベントの全体設計や発表にもプログラミング的思考を働かせて取り組む。

○ Arts（芸術）

ごみの減量や、今の生活が未来の地球の環境に大きく影響するということを地域に発信する際、視覚的にわかりやすく伝わるように写真・イラスト・文章・デザインの工夫を取り入れる。

○ Mathematics（数学）

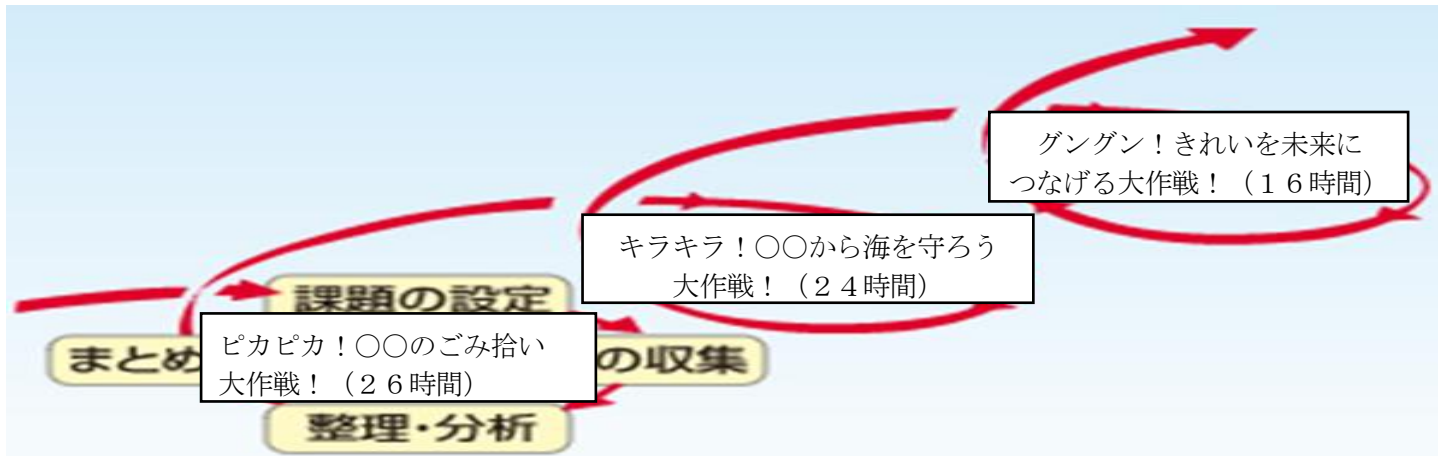
ごみの収集の分析や地域住民への意識調査、学習成果の整理にあたり、アンケート結果や調査データをグラフや表で可視化し、データに基づいて発信内容の根拠を明確にする。イベントや交流会を開催するにあたり、材料や予算の見積もりを根拠に基づいて行う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>○ 環境とは、人々の暮らしと関わりながら成り立っており、それを壊すのも守るのも人間の活動であるということを理解し、地域の環境の調査やイベントの開催を通して、自らの学びや発信が地域の魅力の発見や持続につながることに気付いている。</p>	<p>○ 地域で協力して環境を守っていくために、必要な情報を集め、根拠に基づいて整理・分析しながら持続可能な地域・社会の未来を予測し、自分たちで考えたことを他者によりよく伝わるように目的や相手に応じた方法で効果的に発信している。</p>	<p>○ 自分が地域の一員であるという意識をもち、地域の取組や環境保全に向けて、自分にできることを考え、積極的に関わろうとしている。</p>
<p>① 環境とは、人々の暮らしと関わりながら成り立っており、それを壊すのも守るのも人間の活動であるということを理解している。</p> <p>② 目的や相手に応じた適切な方法を選択し、調査活動を実施している。</p> <p>③ 自らの学びや取組を発信していくことが地域の環境保全やつながりのあるよりよい未来像につながることへの認識の高まりは、地域の課題を自ら発見し、改善策を考えるということを探究的に学習してきた成果であることに気付いている。</p>	<p>① 地域には多くのごみが落ちている現状があり、それが現在問題になっている海洋ごみにも関わっていて、環境や生態系に影響を与えている。そこで、今だけでなくこれからもずっときれいな町や海を守っていくためにはどうしたらよいか、課題を設定している。</p> <p>② 課題解決に向けた現状把握のために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。</p> <p>③ 課題の解決に必要な情報を取捨選択し、比較・関連づけながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 地域や川・海の環境保全を訴えることについて、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、プレゼンテーションソフトなどを活用し、自分の伝えたいことを根拠を明確にして伝えている。</p>	<p>① 課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 地域や海の環境保全に向けた探究的な活動体験を通して、自他のよさを活かしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 地域の未来を見据え、環境保全に向けて自分にできることを考え、社会の一員として地域の取組や課題解決に積極的に関わろうとしている。</p>
<p>出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと）</p>		
<p>・〇〇学区孫子老のまちづくり協議会（エルモ〇〇） ・〇〇学区の住民 ・保護者 （・中区役所地域おこし推進課） ・広島市環境局（中工場） ・フード（江田島市） ・国土交通省 広島港湾</p>		

6 指導と評価の計画（全70時間）

探究の過程の構想



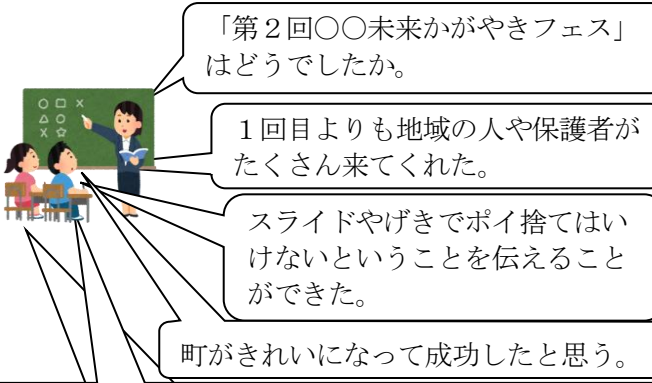
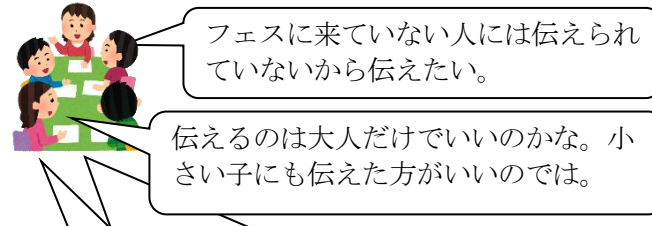
	小単元1 ピカピカ！〇〇のごみ拾い大作戦！ ＜〇〇の町は住みよいか＞	小単元2 キラキラ！〇〇から海を守ろう大作戦！ ＜〇〇のポイ捨てを減らし、キラキラ輝く海を守るためには＞	小単元3 グングン！きれいを未来につなげる大作戦！ ＜〇〇の町が未来もきれいで、環境を守るリーダーになるためには＞
課題の設定	町を歩き、〇〇はどんな町か改めて考え、これからもずっと住みやすい町かどうか、「どうすれば未来も住みやすい町になるか」という課題を設定する。（6時間）	ごみ拾いイベントを開催してもなお、〇〇の町にはごみのポイ捨てが見られることに気付き、「そもそもポイ捨てをする人を減らすためにはどうすればよいか」という課題を設定する。（5時間）（知①・思①）	環境を守るには、地域の人だけではなく、多くの人の協力が必要であることに気付き、「地域外の人や年下の子にもごみをポイ捨てしないことや環境を守る意識を広げていくにはどうすればよいか」という課題を設定する。（2時間）（思①・主①）
情報の収集	地域にごみはたくさん落ちているのかを調査する。ごみ拾いイベントを実施するに当たって必要な情報を集める。（10時間）	企業や行政のごみ拾いイベントの調査、ごみ削減のために活動されている方へのインタビュー、町のポイ捨てや海岸の様子の観察・調査などを通して多面的な情報を収集する。（6時間）（思②）	他地域や行政の発信活動の情報を集め、地域内外に発信するために必要な情報を整理する。（4時間）（知②・主②）
整理・分析	ごみ拾いイベントで大切にしたい考えや、目的をまとめる。（2時間）	収集した情報や体験・学習した内容をもとに、イベントでの発信内容や伝え方を考える。（6時間）（思③）	今までの体験や考えてきたことをもとに、広く発信していくための内容や伝え方を考える。（4時間）（思③・主③）
まとめ・表現	地域が少しでもきれいになるように、地域の人や保護者を招待して、ごみ拾いイベント「〇〇未来かがやきフェス」を実施する。（8時間）	地域の人にポイ捨てが地球の環境や生態系に影響を与えることを伝え、ともに環境を守っていこうと感じてもらうために、「第2回〇〇未来かがやきフェス」を実施する。（7時間）	「ポイ捨てゼロ&ごみ減量啓発パンフレット」を作成し、広く配付・公開するとともに、地域の人や園児を招いて、ごみ減量ワークショップを開く。（6時間）（知③・思④）

※黒枠:本時 黄色:単元の山場

7 本時の目標

「第2回〇〇未来かがやきフェス」の活動を振り返り、活動の意味や価値を考え、どうすればこれからもずっときれいな町を守ることができるのかという課題を設定し、解決のための見通しをもつことができる。【思・判・表①】

8 本時の学習展開

学習活動	働きかけ（目指す子供の姿のために）
<p>1 「第2回〇〇未来かがやきフェス」の活動について思い出す。（10分）</p>  <p>「第2回〇〇未来かがやきフェス」はどうでしたか。</p> <p>1回目よりも地域の人や保護者がたくさん来てくれた。</p> <p>スライドやげきでポイ捨てはいけないということを伝えることができた。</p> <p>町がきれいになって成功したと思う。</p> <p>来た人にポイ捨てはいけないんだと思ってもらえた。</p> <p>これで〇〇の町や海はずっときれいになるのかな。</p> <p>これからもずっときれいだと言えないのは、なぜだろう。</p>	<p>○第2回のフェスについて振り返り、これからもずっとフェスを続けていくことは困難であることに気付くことができるようにする。</p>
<p>2 グループごとに、これからもずっときれいだと言えない理由を根拠を明確にしながら話し合う。（20分）</p> <p><Xチャート（オクリンクプラス）></p>  <p>フェスに来ていない人には伝えられていないから伝えたい。</p> <p>伝えるのは大人だけでいいのかな。小さい子にも伝えた方がいいのでは。</p> <p>〇〇に住んでいる人だけがポイ捨てをやめても海はきれいにならないのではないかな。もっと多くの人に知ってもらった方がいい。</p> <p>自分たちがずっとフェスを開催できるわけではない。</p>	<p>○話し合いの根拠となるように、地域の人にとってアンケートやごみの実態調査の結果や写真などの資料を提示する。</p> <p>○これからもずっときれいだと言えない理由を根拠と合わせて具体的に考えるよう声をかける。</p> <p>○Xチャートを活用し、これからもずっときれいだと言えない理由を焦点化し、整理する。</p> <p>○話し合いが滞っている班には、資料を見せながらフェスに来ていない人には自分たちの思いを伝えられていないことに気付かせるなどして、考えさせるようにする。</p>
<p>3 地域外の人や幅広い年代の人に、ずっと町をきれいにしていきたいと思ってもらうにはどうすればよいか、考える。（10分）</p>	<p>○地域外の人や幅広い年代の人に、ずっと町や海をきれいにしていきたいと思ってもらうためのアイデアを自由に発想し、見通しを立てられるようにする。</p>



これからもずっと町や海がきれいであるためには、どうすればよいかな。

江田島で見た海ごみようかいのようなものを作ったら、小さい子にも海にごみがたくさんあることを伝えられるんじゃないかな。

自分たちがフェスをして、町をきれいにしようとして活動してきたことを、もっとたくさんの人を知ってもらえば、自分たちもやりたいと思う小学生がふえるかも。

できることから取り組もうと考えてくれる人たちを増やすために、自分たち以外にも町や海をきれいにしようとして活動している人たちがいることを知ってもらいたい。

4 振り返りを書く。(5分)

今日は、これからもずっときれいだと言えないのはなぜかということについて考えました。話し合っ、これからもずっと私たちがフェスを続けていくことはできないし、フェスに来ていない人には伝えられていないことに気がきました。まだ意識の低い人もいると思うので、これからもずっときれいな町や海を守っていくためには、今よりもっとたくさんの人に知らせて一人一人がごみ問題を自分のこととして考えてもらうことが大切だと思います。そして、みんなが意識して環境のために行動できるようになってほしいです。そのために、自分たちがしてきた活動やごみを減らすための取組について分かりやすく伝えていきたいです。

○方法論にかたよった場合には、何のために行うのかを問い返し、目的を焦点化できるようにする。

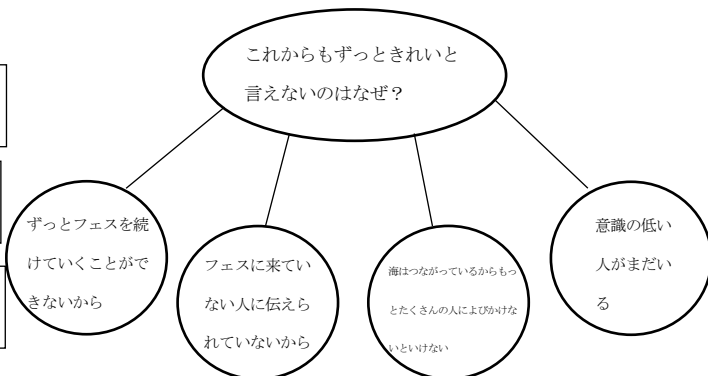
○自分たちがさらに体験したり調べたりする情報収集が必要なことを確認するとともに、今後の総合的な学習の時間で、具体的な目的を考え、整理していくことを伝える。

○めあてに立ち返り、これからもきれいな町や海を守っていくためにはどうしていけばよいのかと、その改善のための方法や取組など、今後の方向性についても書けるようにする。

8-1 板書計画

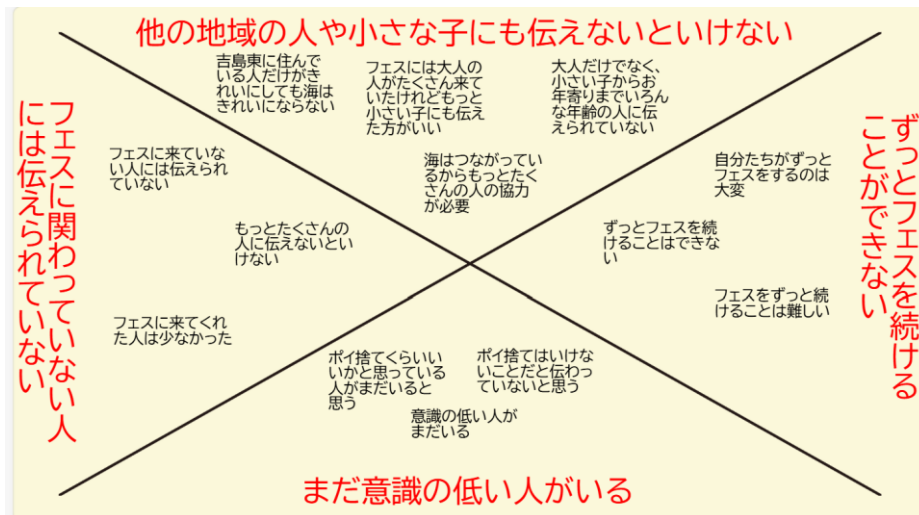
これからもずっときれいだと言えないのは、なぜだろう。

写真



これからもずっと〇〇の町や川からつながっている海がきれいであり続けるには

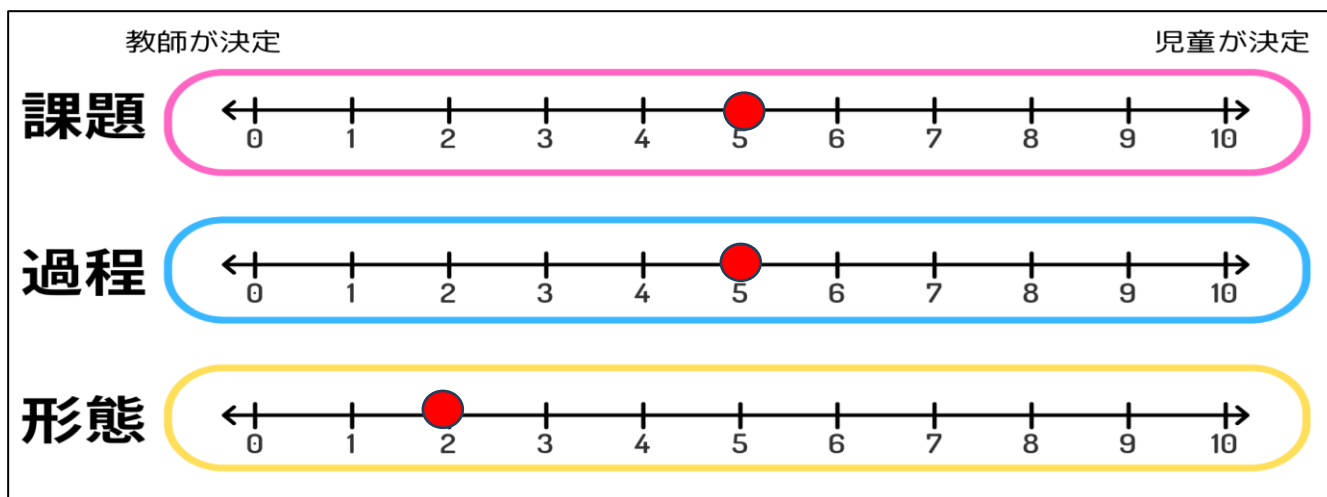
- ・ごみの現状をたくさんの人に知ってもらおうことが大切
- ・4年生の活動を多くの人に知ってもらって自分もやってみたいと思っしてほしい
- ・人任せではなく、自分が何とかしなければと思う人が増えればいい



9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	目指す子供の姿
<p>【思①】 「第2回〇〇未来かがやきフェス」の活動を振り返り、これからはずっときれいな町や海を守っていくためにはどうしていけばよいか考える中で、自分たちが解決を目指す課題を設定するとともに、解決の見通しをもち、必要な活動や取組について考えている。</p>	<p>○「第2回〇〇未来かがやきフェス」の活動を振り返り、これからはずっときれいな町や海を守っていくためにはたくさんの方の協力が必要であることに気づき、自分たちが解決を目指す課題を設定するとともに、解決の見通しをもち、言葉で表している。</p> <p>A 評価：B 評価に加えて、話し合いによって出てきた理由をもとに、2つ以上を関連付けて考えている。 →2回目のフェスは成功して地域の人にも感謝されたけれど、これからはずっと私たちがフェスを続けていくことはできないし、フェスに来ていない人には伝えられていない。まだ意識の低い人もいると思うので、これからはずっときれいな町や海を守っていくためには、今よりもっとたくさんの方に知らせて一人一人がごみ問題を自分のこととして考えてもらうことが大切だと思う。そして、みんなが意識して環境のために行動できるようになってほしい。そのために、自分たちがしてきた活動やごみを減らすための取組について分かりやすく伝えていきたい。</p> <p>B 評価：これからはずっときれいな町や海を守っていくにはどうしたらよいか、話し合いによって出てきた理由をもとに書いている。 →「第2回〇〇未来かがやきフェス」に来ていない人には、自分たちの思いは伝えられていない。もっと多くの人に発信していけるように、次のイベントの内容や地域の人へのアピールの方法について考えたい。</p> <p>C 評価：次の課題設定について、主観的な感想にとどまっている。 →もっとたくさんの方にポイ捨てはいいことだと知らせて、みんなにも気を付けてほしい。</p>

10 教師の介入レベル



※学習課題、学習過程、学習形態について教師が子どもにどのくらい委ねるかを数値化しています。

計画と実際を比べてどうだったか。また、どのくらい介入するべきか。など、参観する際の指標にするために記載しています。

11 本時の見どころ

- 第2回目の「〇〇未来かがやきフェス」の成果と課題について考えることで自分たちが発信者として何ができるかという新たな課題をもち、課題解決するための仮説を立て、それを実現させる道筋を自分たちで考え、アイデアを出し合って今後の学習計画に生かしていく。
- 目的に合わせた思考ツールの活用 (Xチャート)